

《担当者名》礧部 太一（歯） tisobe@hoku-iryu-u.ac.jp

【概要】

生命倫理の概要を、講義形式だけではなく、映像資料などを参照しながら、グループワーク、発表などを実施し能動的に学ぶ。医療現場で問題となっている事例（患者・医療者関係、安楽死と治療停止など）だけではなく、脳科学や生命科学などの現在進行形の研究から起因する倫理的・社会的問題や、社会における医療の役割などを学際的な観点から幅広く取り扱う。

【学修目標】

1. 生命倫理の基本的な概要や問題事例を理解し身につける。
2. 脳科学や生命科学に関わる倫理的・社会的問題について考え、内容を理解する。
3. 生命倫理の概要について、自分の日常生活と関連付けながら学ぶ。
4. グループワークと発表などの参加型の学習を通じて、議論するコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	授業全体の予定や授業の進め方などの説明	礧部
2	生命倫理の誕生と展開	生命倫理の概要と社会的・歴史的変遷について概説できる。	礧部
3	生命倫理の誕生と展開	生命倫理の概要と社会的・歴史的変遷について概説できる。	礧部
4	生命倫理の誕生と展開	生命倫理の概要と社会的・歴史的変遷について概説できる。	礧部
5	医の倫理	医の倫理、新しい医療のモデルについて概説できる。	礧部
6	「患者-医療者」関係	患者と医療者関係について概説できる。	礧部
7	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントの歴史と意義について概説できる。	礧部
8	安楽死と治療停止	安楽死の歴史と概要、安楽死の問題点、安楽死を巡る日本の状況、安楽死と治療停止について概説できる。	礧部
9	脳死	脳死問題の背景と歴史、脳死の判定基準について概説できる。	礧部
10	臓器移植	臓器移植の歴史と問題、臓器移植と法について概説できる。	礧部
11	グループワーク	「死の受容」をテーマにしたグループワークを実施する。	礧部
12	グループワークの発表	「死の受容」をテーマにしたグループワークを実施する。	礧部
13	期末レポートについて	期末レポートの書き方について理解する。	礧部
14	医療の役割	健康と病気、医療の論理、医学の進歩と医学研究を概説できる。	礧部
15	まとめ	授業全体のまとめ	礧部

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末レポート（100%）

【教科書】

玉井真理子・大谷いづみ編（2011）『はじめて出会う生命倫理』有斐閣
戸田山和久（2012）『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版

【参考書】

小林傳司 (2007) 『トランス・サイエンスの時代 科学技術と社会をつなぐ』NTT出版

神里 彩子・武藤 香織 編 (2015) 『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』東京大学出版会

【学修の準備】

- ・授業の前後において、教科書の該当箇所を一読する(80分)。
- ・授業内で出した課題について、次回の授業の際までに行なっておく(50分)。
- ・授業内で実施するグループワークと発表に積極的に参加する。一部、授業外で宿題として実施する(30分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP 1, 4